

認知症基本法ってどんな法律？

昨年1月、「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」が施行されました。法律の目的を明らかにして、目的の浸透を図るため「認知症基本法」ではなく「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」と命名されました。この法律は「認知症の人が尊厳を保持しつつ希望を持って暮らすことができる」ことを第1条で目的に掲げています。今までの「認知症問題」の解決や対応ではなく、認知症の人を主人公にしてその尊厳と希望をうたっている、日本では画期的な基本法なんです。

実は日本では画期的な法律なんです



共生社会の実現をめざすとは

お互いが個性と能力を発揮し、支え合いながら共生する活力のある社会のことですが、本人が地域でよい状態で暮らせることで家族

も楽になる社会をめざします。全ての認知症の人が、基本的な権利を享有する個人と明記されたので、認知症の全ての施策、取組みは人権ベースで、本人視点で企画、実施、評価をあたりまえのこと、あたりまえに自分事として取り組むことができるようになりました。これを「新しい認知症観」(常識)として認知症の知識に加え、認知症の人の理解を深め、今後の啓発、普及のメインに位置付けられました。

高齢者の3.6人に1人が認知症

60歳以上の高齢者で認知症の人は約443万人、認知症の前段階とされる軽度認知障害の人は559万人と推計され、認知症は「明日は我が身」になりえるものです。今年度から国の認知症施策推進基本計画が策定され、県市町村も作成が義務付けられました。



新しい認知症観を日々のあたり前に

古い認知症観 (古い常識・文化)
他人ごと、問題重視、疎外、絶望

みんなが苦しい 悪循環
消耗
後向き
やりがいのない
人が離れて行く

- ①他人ごと、向き合わない、先延ばし
- ②わからなくなる・できなくなる
本人が自分で選ぶ・決めるのは無理
- ③恥ずかしい、周りに隠す
- ④世話になる一方、地域で暮らすの無理
- ⑤暗い、萎縮、楽しめない、絶望的

新しい認知症観 (新しい常識・文化)
自分ごと、可能性重視、地域で、希望

みんなが楽になる 良循環
前向き
活力
やりがい
人が集まる

- ①自分ごと、向き合う、今ここで
- ②わかること・できることがある
本人が自分で選ぶ・決める (その支援を)
- ③自分は自分、隠さずオープンに
- ④地域の一員として活躍できる、ともに
- ⑤明るい、のびのび、楽しい、希望がある



「8 が け 社 会」

県・市町村の人口と指数
(2020 年を 100 とする)

	人口 (人)		指数
	2020 年	2050 年	
山形県	1,068,027	710,838	66.6
新庄市	34,432	19,662	57.1
金山町	5,071	2,317	45.7
最上町	8,080	3,830	47.4
舟形町	5,007	2,436	48.7
真室川町	7,303	3,176	44.1
大蔵村	3,028	1,346	44.5
鮭川村	3,902	1,776	45.5
戸沢村	4,199	1,848	44

シリーズ「人口減少時代を生きる」
2050年の山形県の人口は71万人になる。(国立社会保障・人口問題研究所の発表) 県の人口は毎月1000人程度減るペースが続いている。まもなく100万人を割る。最上町は2050年には今の7300人から3800人に5割以上も減少する。
シリーズ「人口減少時代を生きる」は10回を予定し、支えて不足、働き手の奪い合い、縮みゆく地方、若い女性がいらない、子供が生まれにくい等々、日本社会と地方が抱える深刻な諸問題を提起し考えたい。そして、この時代をどう生き、どこに展望があるのかを考えてみたい。

ヴァイオリニスト 池田敏美さんの歩んだ道 ②

新星日本交響楽団設立への情熱

日本ではじめての演奏家の手による自主運営のオーケストラ 新星日本交響楽団が1969年6月、文字通り新星のごとく誕生した。創立メンバーは音大を出て間もない平均23歳の若い音楽家が主だった。当時、日本のオーケストラの多くは放送資本などのスポンサーを持っており、非民主的な運営、楽団員の無権利、低賃金、ハードスケジュール等の悪条件のもとにあった。しかも儲からないとなるとスポンサーは簡単に楽団を解散した時代だった。
こうした中で新星日響は広範な勤労市民の音楽要求にこたえる活動方針を掲げ、聴衆との連帯を大切にしながら新しい日本の音楽文化の創造をめざし、困難な自主運営・経済的自立の道を歩みはじめた。同じ楽団員で敏美さんの夫池田鉄さんはヴァイオリンを捨てて運営委員長として楽団の運営、渉外に奔走していた。私が神田の大手出版社で学生アルバイトをしていたとき、労働組合の青年部に2回も訪ねてきたのを覚えている。第1回定期演奏会に行ったのはこの誘いがあったからだ。

敏美さんは楽団の創立当時を振り返って、当時の新聞に「楽団員は最初35人くらい、自由意志で参加したメンバーでしかオケストラとしてはアンバランスな編成で、技術上も未熟でした。」と語っている。敏美さんは武蔵野音大で共に学んだ鉄さんと結婚したのは卒業すぐのこと。で楽団創立2年前、当時をこう語る「私には仕事がなく、音楽の生活で教えるなどキウキウのときには私の音楽生命は終わるだと思い、育児に専念していた。夫から私にも楽団への入団をすすめてくれた時には、嬉しさでいっぱいでした。子持ちではやっつけられないというのがこの世界の常識だったからです。」(池田鉄追悼集)と言っている。
1969年10月2日の第1回定期演奏会で白いステージ衣装の敏美さんがコンサートマスターの席で満面の笑みで迎えてくれたのを、56年後の今でも覚えている。

大場 武男(やまなみ理事長)



先祖の心を伝える碑《三十一》

防火に関係する碑【下】 三宝荒神碑、愛宕信仰

伊藤和美（最上町若宮在住）

三宝荒神は仏・法・僧を守護し、善人を助けて悪人を罰する神だそうだが、荒々しく崇めやすい神だとも言われている。江戸時代以降に、民間では火の神、竈の神として信仰

要視していた村であった。今もその堺田の東端に、江戸初期に独立村となった頃からの堺田村の鎮守、産土神だったろうと推察される堺田八幡神社がある。その境内の一角に、馬頭観世音や南無阿弥陀仏、庚申などの碑と並んで、最上町内唯一かと思われる「三宝荒神」碑が立っている。白御影石製の碑高約八八cm、幅二〇cm、奥行一九・五cmの直方体の碑。「平成二年三月」と建立年は彫られているが、建立者名の刻字はない。

初見の年月は記憶にないが、筆者は数年前から堺田の三宝荒神碑も防火を願った方が火の神として祀ったのだらうと考えてきた。半月ほど前から本連載のための聞き取りをはじめ、ようやく事情を知る方々に辿り着くことができた。この碑の建立者は新田の方（故人）で、オナカマ（占い師）のお告げを受けて、交通事故の防止を願い建立した碑なのだという。あるいは防火の願いもあったのかも知れないが、事情を記憶していた二人の方の内容がほぼ一致していたので、碑建立の本願は交通事故防止にあったと判断しているであろう。内容から言えばこの三宝荒神碑は「防火に関係する碑」の項にそぐわない碑だが、単に刻字だけ



堺田の三宝荒神碑

されるようになったのだという。地方によっては、作の神として信仰されてきた三宝荒神もあるとのこと。

向町の愛宕信仰

これまで筆者は最上町内で関係する碑を確認してはいないのだが、当地の防火信仰として、大方の記憶に留めてほしいと思っている愛宕信仰の歴史について、以下に略記しておきたい。ご承知のように、向町の愛宕・熊野両社は最上祭りの祭神である向町の産土神を祀る神社。そのうち愛宕神社は、神話上の伊邪那美命の子と言われる迦具土命を祭神としている。この神は火の神、防火の神である。



向町の愛宕神社

の愛宕神社は遅くとも今から二八〇年ほど前、江戸時代後半には奉斎されていたようだ。本連載58に向町の江戸時代の火災について略記したが、愛宕神社の奉斎には、向町の人びとの強い防火の思いが込められていたと言える。向町を一望できる里山の頂上に防火の神を祀り、産土神として崇めてきたことに向町の先人達、祖先の防火への強い思い（心）を読み取ることができる。愛宕山という山名を口にするたびに、できれば多くの方々にその名称の由来となった愛宕神社と愛宕信仰の歴史にも幾分か思いを馳せていただければ幸いである。

初の公開収録
らじとーく

幸高ラジオ 代表 高橋 理央

幸高ラジオ2周年企画

そして今回、2025年3月23日（日）に最上町高齢者総合福祉センター（ウエルネスプラザ内）大広間に幸高ラジオ主催、初の公開収録を行いました。この公開収録では「最上町町政施行70周年記念式典」にラジオメンバーも参加させていたことから、ラジオオとして何か記念に残るようなことをしたいと思い、「最上町町政施行70周年」と「幸高ラジオ2周年企画」として初の公開収録「らじとーく」幸高ラジオ×熱き漢たち「継ぐ」というテーマのもと、縁を愛する会長・本間山田さん、りくとうサポーターズ山形県側代表・大石紳一郎さん、移動販売ともちゃん代表・小林智輝さんの計3名をゲストに迎え、ゲストの方々の今行っている活動などを熱く語っていただきました。

まだまだ未熟な部分もありますが、こうして代表である私が「最上町を盛り上げたい」という思いについてきてくれる仲間、温かく見守ってくださる皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。今年度の活動としては、「定期的なラジオ番組の発信」を行っていきたくと考えています。これからも幸高ラジオらしく多くの企画やイベントをしていきたいと思っていますので応援よろしくお願いします。

会場には20人を超える老若男女の幅広い年代の方からご参加いただきました。幸高ラジオとして初めてのイベントということもあり、イベント当日までかなりの練習を重ねてきました。当日は、緊張よりもワクワクの方が強く、私たちも楽しみながらいつも通りの幸高ラジオの雰囲気が出てスムーズに収録を進める事ができました。

収録終了後には、観客の方ともお話する機会があり、多くの応援の声やラジオに対しての良い感想等を直接受け取ることもでき、とても充実した時間になりました。今回、収録したラジオ番組はYouTubeにも公開しておりますのでQRコード（インスタグラムアカウント）を読み取り、ぜひお聴きください。

YouTubeに掲載



こちらからお聴き頂けます

幸高ラジオ
Instagram QR